



JSBMR Newsletter No. 13

日本骨代謝学会／The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

第 27 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2009年7月23日(木)～7月25日(土)
会 場: 大阪国際会議場
会 長: 大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座
生化学教室 教授 米田 俊之
参加費: 12,000円(大学院生 5,000円・・・学生証の提示が必要です)
ホームページ: <http://www.convention.co.jp/27jsbmr/>

～～～～～～～～～～ 2009年度の各賞が決定しました ～～～～～～～～～

6月に行われた選考委員会・理事会において、2009年度の各賞が下記のように決定いたしました。

- 【学会賞】** 高岡 邦夫 (阪和第二泉北病院内 阪和人工関節センター 顧問
大阪市立大学大学院医学研究科整形外科学 前教授)
- 【学術賞】**
- <基礎系> 高柳 広 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)
 - <基礎系> 鄭 雄一 (東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻)
 - <内科臨床系> 伊東 昌子 (長崎大学病院放射線部)
- 【研究奨励賞】**
- <内科臨床系> 八十田明宏 (京都大学医学部附属病院内分泌代謝内科)
 - <外科・歯科臨床系> 仲村 一郎 (湯河原厚生年金病院リウマチ科)
宮本 健史 (慶応義塾大学医学部整形外科)
- 【優秀演題賞】**
- <基礎系> 延 珉榮 (東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)
村上 智彦 (宮崎大学医学部解剖学講座分子細胞生物学分野)
 - <臨床系> 平田 真 (東京大学医学部整形外科)
森岡 和仁 (東京大学医学部整形外科)
- 【JBMM 論文賞】** 藤巻 亮二 (佐野厚生総合病院整形外科)

※7月24日(金)13時35分より、総会に引き続いて表彰式および受賞講演が執り行われる予定です。

～～～～～～～～～～ JBMM 誌インパクト・ファクター発表 ～～～～～～～～～

2009年6月に発表された日本骨代謝学会英文誌「Journal of Bone and Mineral Metabolism」の
インパクト・ファクターが、**2.100**へ急上昇しました！

＜第 27 回日本骨代謝学会学術集会抄録集当日配布のお知らせと プログラムスケジュールの WEB サイトでの掲載＞

JSBMR NewsLetter No.12 でもお知らせいたしましたが、第 27 回日本骨代謝学会学術集会は、第 26 回学術集会が 10 月末に開催されたことにより準備期間が短いため、演題募集終了期日を平成 21 年 4 月 14 日(火)までと例年よりも遅く設定させていただきました。このため、第 27 回日本骨代謝学会学術集会の抄録集を事前に郵送することがスケジュール的に困難となり、学術集会に参加していただく会員の皆様方には、学術集会の参加受付時に抄録集をお渡しすることとさせていただきます。抄録集を事前に配布できないことによるご不便を少しでも補足するために、第 27 回日本骨代謝学会学術集会のプログラム内容(演者名、演題名、会場および日時)を WEB サイト(<http://www.convention.co.jp/27jsbmr/>)に掲載いたしておりますので、よろしくご覧くださいようお願い申し上げます。

また、学術集会に不参加の会員の皆様方には、後日、抄録集を郵送することとさせていただきます。

会員の皆様には、たいへんご不便をおかけいたし、誠に申し訳なく思っておりますが、事情をご理解頂きご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

2008 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2008 年 10 月～2009 年 3 月末)

■2008 年度 第 2 回理事会議事録■

日 時: 2008 年 10 月 28 日(火) 19 時 00 分～21 時 00 分

会 場: 大阪国際会議場 11 階 1101 会議室

議 事:

2008 年度第 1 回理事会議事録(案)について、一部修正の上、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、宗圓理事、野田理事が担当することとした。

＜報告事項＞

1. 庶務報告(水沼理事)

水沼理事より、2008 年 9 月 30 日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、2008 年 9 月 30 日時点での会計中間報告があり、承認した。

3. 各種委員会報告

1)あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、第 26 回学術集会にて、あり方委員会主導の若手シンポジウムを企画した旨報告があった。また、基礎と臨床の入門的な講演を開催してはどうかとの提案に対し、今年度より「Meet the Expert Session」と題したセッションが開催される運びとなった旨、報告があった。

2)JBMM 編集委員会(清野委員長)

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

- ・2008 年 1 月 1 日～10 月 14 日までの投稿数は 209 編であり、投稿数が増加している。(2007 年度同期間は 186 編)
- ・投稿の内訳では、海外からの投稿が国内の約 2 倍である。

- ・2007 年度インパクトファクターは 1.425 であった。

清野理事長より、投稿数の増加に伴い、採択論文の雑誌発行までのタイムラグが長くなっていることを考慮し、月刊発行にすることを検討している旨、報告があった。また、経済的な点を考慮し、オンラインファーストを導入することにより冊子体の刊行を減らしてはどうかとの提案もあり、継続して検討していくこととした。本件は、評議員会でも協議することとし、日本骨形態計測学会の意見も伺うこととした。

3)国際渉外委員会(米田委員長)

米田委員長より、各国との連携を強めるため、IBMS 2009 において、Asian Session を 2009 年 3 月 21 日(土)に開催する旨、報告があった。本 Session はインド、中国、韓国、シンガポールが参加する予定である。なお、IBMS の下部組織の形で、Asian Societies of Bone and Mineral Research の設立に向けて準備中である旨、報告があった。

松本理事長より、IBMS-ANZBMS Travel Award について、査読点数が平均 4 点以上であった 25 名について 1 名あたり 15 万円の Award 支給を予定している旨、報告があった。

4)臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、本委員会委員について下記のメンバーで構成する旨、報告があり、了承した。

岡崎 亮先生(成人の血清 25OHD 基準値設定について)
大菌恵一先生(小児の血清 25OHD 基準値設定について)
福本誠二先生(骨軟化症の診断マニュアルについて)

なお、整形外科、産婦人科分野のガイドラインについても取り扱ってはどうかとの提案があり、軟骨マーカー、リウマチ、OA での診断基準担当として宗圓理事が、エストロゲンと骨関連の診断基準担当として萩野理事、水沼理事が委員会に参加することとなった。

5)骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(太田監事(遠藤委員長代理))

太田監事より、2000 年度版の妥当性についての論文が JBMM に投稿されたが、現在大幅な改定を行う状態である旨、報告が

あった。また、11月1日に、short versionの作成に向けて委員会を開催する予定である旨、報告があった。

6) 骨密度基準値設定委員会(福永委員長)

福永委員長より、全国の施設より収集したYAM値の1996年度の数字との比較について資料をもとに報告があり、橈骨については、値を改定する必要のある旨、説明があった。

YAMを20-29歳とした場合の腰椎、大腿骨、橈骨の値について報告があり、Nの数が少ない箇所についてはメーカーより追加資料を取り寄せ、藤原委員のもとでデータ統合作業を進めている旨、説明があった。

また、NHANESの20~29歳の黒人、白人、メキシコ系と日本人を比較した数値、およびYAM値の20~44歳の値について説明があった。

7) 広報委員会(萩野委員長)

萩野委員長より、ホームページ英語版の充実のため、新たに岡崎委員、田中委員が加わり、学術集会会期中に委員会を開催する旨、報告があった。

8) ビスフォスフォネート顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田委員長より、7月28日に第2回委員会が開催された旨、主に以下の報告があった。

- ・日本歯周病学会の参画が必要であることから、日本歯周病学会より永田俊彦教授(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・歯周歯内治療学分野)の推薦があり、承認した。
- ・ガイドライン作成にあたり、画像診断エキスパートの参画が必要であることから日本歯科放射線学会より田口明教授(松本歯科大学)が加わることとなった。
- ・ガイドライン草案について、10月29日に委員会を開催し協議する予定である。
- ・Perspective Studyの可能性について、乳癌の骨転移患者でBP投与症例を対象とした検討が可能ではないかとの見解を得た。
- ・10月29日の委員会では、日本歯科医学会より杉崎正志教授(慈恵会医科大学歯科口腔外科)に出席いただき、骨髄炎の患者における統計処理の可能性について伺う予定である。

9) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会(松本理事長(名和田委員長代理))

松本理事長より、2004年度に発行したガイドラインの改訂作業を行うため、名和田委員長より推薦のあった委員会メンバーの提示があった。協議した結果、松本理事長、高岡委員、福永委員については委員継続を辞退することとし、新委員として中山久徳先生(国立病院機構相模原病院リウマチ科)に依頼することとした。

4. 第27回日本骨代謝学会準備状況について(米田会長)

米田委員長より、第27回学術集会の準備状況について報告があった。第26回学術集会終了からの期間が短いことから、演題募集から抄録発送までの日程を確保することが厳しいことを考慮し、抄録の配布を当日に行い、プログラムや日程表については確定した段階でホームページへ逐次掲載するなどの対応策を検討している旨、報告があった。

5. 第28回日本骨代謝学会準備状況について(太田会長)

太田会長より、第28回学術集会の準備状況について2010年7月21日(水)~23日(金)に京王プラザホテルにて開催予定である旨、報告があった。

6. 学会誌掲載論文の転載許可について(松本理事長)

松本理事長より2008年度第1回理事会終了後に依頼のあった転載依頼「原発性骨粗鬆症の診断基準」およびJBMM Vol.25 No.6の図版転載依頼について報告があり、承認した。

7. 功労評議員について(松本理事長)

松本理事長より新功労評議員について提示があり、了承した。

8. 各賞名称の英語表記について(松本理事長)

松本理事長より、各賞の英語表記について8月にメール理事会を行い協議した結果、下記の案を採用したい旨提案があり、承認した。

学会賞・・・ JSBMR Award

学術賞・・・ JSBMR Distinguished Scientist Award

研究奨励賞・・・ JSBMR Research Encouragement Award

優秀演題賞・・・ JSBMR Young Investigator Award

JBMM論文賞・・・ JBMM Best Paper Award

<審議事項>

1. 新評議員の推薦について(松本理事長)

松本理事長より、2008年度第1回理事会以降推薦のあった以下の評議員候補者について、履歴書および業績目録など資料に基づき報告があり、全会一致にて承認した。

青木 和広先生(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科硬組織薬理学分野)

秋山 治彦先生(京都大学医学部整形外科)

井上 大輔先生(帝京大学ちば総合医療センター第三内科)

高柳 広先生(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)

竹田 秀先生(慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科)

2. 2011年度(第29回)学術集会会長選出について(松本理事長)

松本理事長より、2011年度(第29回)学術集会会長について、協議した結果、大菌理事に決定した。

3. IBMS2013 開催について(野田理事)

野田理事より、IBMS の合同委員会にて、IBMS2013 年大会の日本開催が確定した旨報告があった。松本理事長より、野田理事を組織委員長として学会をあげて準備したい旨の提案があり、全会一致にて承認した。

4. 第 14 回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)後の骨代謝サテライトシンポジウムについて(大菌理事)

大菌理事より、2010 年 3 月 31 日に開催する骨代謝サテライトシンポジウム開催候補地について大阪を予定している旨、報告があった。プログラムについては、ICE 2010 のプログラムを考慮しながら検討していく旨、報告があった。

5. 骨粗鬆症の診断基準について(松本理事長)

松本理事長より、現行の骨粗鬆症の診断基準について、高橋榮明名誉会員より、本会および日本骨粗鬆症学会、日本骨形態計測学会へ改定してはどうかとの依頼状が届いた旨、報告があった。

協議の結果、前向きに検討することとし、椎体骨折判定基準再評価委員会を発足させ、委員長を福永理事、委員を宗圓理事、萩野理事で構成することとした。

■2008 年度 第 3 回理事会議事録■

日時: 2009 年 2 月 28 日(土) 15 時 00 分～17 時 00 分

会場: 東京国際フォーラム 6 階 G608 会議室

議事:

2008 年度第 3 回理事会議事録(案)の承認(松本理事長)

2008 年度第 2 回理事会議事録(案)について確認の上、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、萩野理事、吉川理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告(水沼理事)

水沼理事より、2009 年 1 月 31 日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。なお、会費長期滞納者について提示があり、関係の滞納者へ納入を依頼することとした。なお、キッセイ薬品工業(株)より退会届について、清野監事の交渉により継続していただくこととなった旨、補足説明があった。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、2009 年 1 月 31 日時点での会計中間報告があり、承認した。

3. 各種委員会報告

1)あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、本理事会直前に委員会を開催した旨、主に以下の報告があった。

・第 26 回学術集会プログラムにより導入された「Meet the

Expert Session」およびあり方委員会企画シンポジウムが好評であった。

・学術集会に関する新たな提案として、ポスターセッションを活性化すること、および臨床系会員が現場で役に立つセッションを設けてはどうか等の意見があった。

・本会の社会的貢献を内外に周知するため、研究者が、文部科学省の指定する高校へ出張講義を行うスーパーサイエンスハイスクール制度を導入してはどうかとの提案があった。

審議の結果、上記事項を了承し、スーパーサイエンスハイスクール制度については、既に出張講義を積極的に行っている会員や評議員の活動を、本会が後援する形を採用することとした。

2)国際渉外委員会(米田委員長)

米田委員長より、IBMS 2009 会期中の 2009 年 3 月 21 日(土)において開催することとなった Asian Session の講演者について紹介があり、参加の呼びかけがあった。なお、本セッションを継続することで、IBMS の下部組織の形で、Asian Societies of Bone and Mineral Research の設立を合わせて準備していく旨、報告があり、了承した。

3)JBMM 編集委員会(松本理事長(清野編集委員長代理))

松本理事長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

・2009 年 1 月 1 日～2 月 16 日時点の投稿数は 25 編であり、昨年の同時期に比べて減少している。査読を厳しくしていることが原因と思われることから、質の高い論文を維持しながらも、改訂によって採択される可能性のある論文については可能な限り受理してほしい。

・発行スケジュールは予定通り進んでいる。

2008 年度は投稿数が増加した。今後も増加するならば、コストが増大するので、冊子体を減らし、オンライン発行をメインにしなければならない可能性もあることが指摘された。現時点では、科研費補助金の制度により冊子体の刊行が必要であることや、雑誌の格付けの面からもハードの雑誌がある方がよいという意見等をふまえ、継続して審議していくこととした。

4)臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、第 26 回学術集会期間中に開催した委員会にて決定した下記の小委員会について報告があった。

・血清 25OHD 基準値の設定検討委員会(岡崎委員)

・小児科における血清 25OHD 基準値の設定検討委員会(大菌委員)

・骨軟化症の診断マニュアル検討委員会(福本委員)

・関節疾患における軟骨代謝マーカーの有用性についての検討小委員会(宗圓委員)

・妊娠と骨代謝検討小委員会(水沼委員)

・運動と骨代謝検討小委員会(萩野委員)

5)骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(太田監事(遠藤委員長代理))

太田監事より、第 26 回学術集会期間中に開催した委員会について、主に下記の報告があった。

・2000 年度妥当性についての論文を JBMM に投稿したところ、1999 年度版との相違が認められないとのことで却下され、現在改訂中である。

・2000 年度版の質問数が多いことから、short version の作成に向けてアドバイザーの熊本先生を中心に統計解析をしながら、項目数や、骨粗鬆症らしさ、日本人らしさを残した質問の作成について検討している。

6) 骨密度基準値設定委員会(太田監事(福永委員長))

太田監事より、2006～2008年にかけて収集したYAM値の1996年度の数字との比較についてまとめた報告書の提示があり、主に以下の報告があり、了承した。

- 腰椎はL2-4については、QDR、DPX、DCS-900の3機種では、YAM 70%と-2.5SDはほぼ同じBMDを示す。
- L2-4のYAMは、1996年と2007年でほぼ同じ値である。橈骨に若干の変更がある。
- 大腿骨近位部については、FRAXの導入による骨折リスクの評価には%表示ではなくTスコアまたはZスコアを入力する必要がある。また、疫学調査でNHANESの白人のデータと比較する場合、YAMとSD表示を使用する必要がある。従って、大腿骨近位部はTスコア表示にする方が良い。
- 橈骨は従来どおり%表示を用いる。
- 本報告のJBMMへの掲載を現在準備中である。

なお、骨密度基準値の設定に伴い、診断基準も改訂が必要となることから、今後継続して審議していくこととした。

7) 広報委員会(萩野委員長)

太田監事より、現在データ収集作業を終え、YAM値は10年前と殆ど差異のない結果であったこと、および福永委員長と曾根委員を中心に論文を執筆中である旨、報告があった。

8) ビスフォスフォネート顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田委員長より、第26回学術集会期間中に第3回委員会が開催された旨、主に以下の報告があった。

- 日本歯周病学会より永田俊彦教授(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・歯周歯内治療学分野)が参画することとなった。
- ガイドライン作成にあたり、画像診断エキスパートの参画が必要であることから日本歯科放射線学会より田口明教授(松本歯科大学)が参画することとなった。
- 日本歯科医学会代表として杉崎正志教授(東京慈恵会医科大学歯科学教室)より、臨床疫学調査研究について、研究概念、コホート研究、統計解析、研究経費などの解説があり、現時点では、骨粗鬆症の患者数が基準に達していないため、実施することは難しいとの結論を得た。
- ガイドライン草案については、画像診断(X線画像による経過観察など)を診断基準に可能な限り含める予定である。
- ガイドラインは、第27回学術集会で発表し、Position PaperとしてJBMMへ掲載する予定である。

9) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会(松本理事長(名和田委員長代理))

松本委員長より、本委員会構成メンバーについて、前回理事会での意見を考慮した結果、名和田委員長より最終(案)の提示があった旨、報告があり、承認した。

ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会

<委員長>

名和田 新 福岡県立大学(学長)

<副委員長>

鈴木 康夫 東海大学医学部血液・腫瘍・リウマチ内科

<委員>

大藪 恵一 大阪大学大学院医学系研究科小児発達医学講座

佐川 昭 (医)札幌山の上病院リウマチ膠原病センター

宗圓 聡 近畿大学医学部奈良病院整形外科

高柳 涼一 九州大学大学院医学研究院老年医学

田中 郁子 藤田保健衛生大学医学部臨床検査部

田中 弘之 済生会岡山総合病院小児科

田中 良哉 産業医科大学医学部第1内科

中山 久徳 国立病院機構相模原病院リウマチ科

藤原佐枝子 放射線影響研究所臨床研究部内科

三木 隆己 大阪市立大学医学部附属病院老年科・神経内科

4. 第28回日本骨代謝学会準備状況について(太田会長)

太田会長より、第28回学術集会の準備状況について2010年7月21日(水)～23日(金)に京王プラザホテルにて開催予定である旨、主に以下の報告があった。

- テーマは「骨代謝学の新たな展開—基礎から臨床への架け橋—」を予定している。
- 特別講演は、松本理事長に依頼し内諾を得ている。
- 日韓合同シンポジウム、あり方委員会シンポジウムおよびMeet the Expertは継続して実施予定である。
- 臨床系会員へ還元できる企画を検討したい。
- 市民公開講座または高校生の招聘など、社会的貢献を考慮した企画を検討したい。

なお、第28回プログラム委員会は、第27回学術集会会期中に立ち上げることとし、プログラム企画(案)について事前に評議員へアンケートをとることとした。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について(松本理事長)

松本理事長より2008年度第2回理事会終了後に依頼のあった転載依頼「原発性骨粗鬆症の診断基準」およびJBMM Vol.23 No.2「ステロイドガイドライン」図版転載依頼について報告があり、承認した。なお、南江堂より依頼のあった出版物については、引用元の表記について一部修正を依頼したにもかかわらず、すでに印刷を進めていたことが判り、再度刷り直すこととなった旨、経緯の説明があった。

6. ASBMR 2009 について(松本理事長)

松本理事長より、2010年3月31日に開催する骨代謝サテライトシンポジウム開催について、国際内分泌学会より正式に承認された旨、報告があった。プログラムについては、同国際学会プログラム委員長を務める加藤理事と相談の上、ICE 2010で招待する講演者を中心に企画していく旨、報告があった。なお、co-chairとして米田理事、吉川理事も担当してもらう旨、提案があり、承認した。

7. 第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)の骨代謝サテライトシンポジウムについて(松本理事長(大藪理事代理))

松本理事長よりASBMRの2009年度評議員選挙において、野田理事が新評議員に選出された旨、報告があった。なお、野田理事についてはIBMSの副会長候補にもノミネートされている旨、合わせて報告があった。

<審議事項>

1. 新評議員の推薦について(松本理事長)

松本理事長より、2008年度第2回理事会以降推薦のあった以下の評議員候補者について、履歴書および業績目録など資料に基づき報告があり、全会一致で承認した。

妻木 範行先生

(大阪大学大学院医学系研究科骨・軟骨形成制御学)

橋本 淳先生

(大阪大学大学院医学系研究科器管制御外科学(整形外科))

2. IBMS 2013 開催について(松本理事長)

松本理事長より、IBMS 2013 組織委員会について以下のメンバーが決定した旨、報告があり、本会が全面的に支援していく旨、確認した。

日本骨代謝学会; 野田政樹理事(組織委員長)、松本俊夫理事長(委員)、加藤茂明理事(委員)

Australia ; Natalie Sims

Europe ; Rajesh Thakker

North America ; Steve Cummings

なお、2015 年の開催については、ブラジルまたは南アフリカが候補地となっている旨、合わせて報告があった。

3. 2009 年度各賞応募・選考スケジュールについて(松本理事長)

松本理事長より、学会賞、学術賞、研究奨励賞、優秀演題賞(旧奨励賞)ならびに JBMM 論文賞の応募・選考スケジュールについて提案があり、原案のとおり承認した。

4. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞選考委員選出について(松本理事長)

松本理事長より、標記の件について従来通り、理事会出席者で構成してはどうかとの提案があり、了承した。(監事、委員長はオブザーバーとする。)

5. 骨折の判定基準について(松本理事長)

松本理事長より、椎体骨折の判定について、福永理事より提案のあった日本骨形態計測学会、日本骨粗鬆症学会と3学会合同のアンケート(案)の提示があり、送付文章を一部修正のうえ、承認した。

今後の学会予定

●第 28 回日本骨代謝学会

会 期: 2010 年 7 月 21 日(水)~23 日(金)

会 場: 京王プラザホテル

会 長: 太田 博明(東京女子医科大学産婦人科学教室)

関連学会の大会開催予定

●第 42 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

会 期: 2009 年 7 月 16 日(木)~17 日(金)

会 場: パシフィコ横浜

(〒220-0012 横浜西区みなとみらい 1-1-1)

TEL:045-221-2155(代)

会 長: 別府 保男(国立がんセンター中央病院整形外科)

大会 HP: <http://www.his-brain.co.jp/joa-tumor42/index.html>

●第 11 回日本骨粗鬆症学会 骨ドッグ・健診分科会

会 期: 2009 年 10 月 14 日(水)~16 日(金)

会 場: 名古屋国際会議場

(〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 1 号)

TEL:052-683-7711(代)

会 長: 白木 正孝(成人病診療研究所)

大会 HP URL: <http://kkkyow.rs.jp.net/amjos/>

●第 12 回癌と骨病変研究会

会 期: 2009 年 11 月 20 日(金)9:00~17:30(予定)

会 場: 千里阪急ホテル

(大阪府豊中市新千里東町 2-1-D-1 号)

代 表: 松本 俊夫(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス
研究部生体情報内科学)

参加費: 5,000 円

事務局: 『癌と骨病変研究会』事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-20-2 ベル赤坂 1 階

株式会社グラフィティ

TEL:03-3583-1745 FAX:03-3583-1741

E-mail: jscbd@graffiti97.co.jp

研究会 HP: <http://www.sec-information.net/jscbd/index.html>

●第 3 回 骨・軟骨フロンティア(BCF)

The 3rd Meeting of Bone and Cartilage Frontier

会 期: 2009 年 11 月 28 日(土) 13:00~18:30(予定)

会 場: ベルサール八重洲 3階Room1, 2, 3(予定)

東京都中央区八重洲1-3-7

八重洲ファーストフィナンシャルビル3F

(東京駅八重洲北口徒歩3分)

http://www.bellesalle.co.jp/bs_yaesu/

代表世話人: 米田俊之(大阪大学)

監事世話人: 松本俊夫(徳島大学)

山口 朗(東京医科歯科大学)

世話人・監事(50 音順):

秋山治彦(京都大学)、今村健志(癌研究所)、

加藤茂明(東京大学)、小守壽文(長崎大学)、

高柳 広(東京医科歯科大学)、田中 栄(東京大学)、

妻木範行(大阪大学)、西村理行(大阪大学)、

福本誠二(東京大学)、松尾光一(慶應義塾大学)

予定演者(50 音順):

Ernestina Schipani (MGH-Harvard Medical School)

小林竜也 (MGH-Harvard Medical School)、

今泉和則(宮崎大学)、緒方直史(東京大学)、

北浦英樹(東北大学)、高橋信弘(東京農工大)、

竹田 秀(慶応大学)、原田理代(熊本大)、

増山律子(長崎大学)、松本雅記(九州大学)

共 催: 骨・軟骨フロンティア/旭化成ファーマ株式会社
事務局/お問合せ先:

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

口腔病理学分野 担当: 中里 弥恵

FAX:03-5803-0188

E-mail: bc_frontier@mail.goo.ne.jp

●第 31 回アメリカ骨代謝学会

The 31st Annual Meeting of the American Society for Bone
and Mineral Research

会 期: 2009 年 9 月 11 日(金)~9 月 15 日(火)

会 場: Colorado Convention Center (in Denver Colorado)

大会 HP: <http://www.asbmr.org/meeting/index.cfm>

●第 14 回ビタミン D ワークショップ -14th Vitamin D Workshop-

会 期: 2009 年 10 月 4 日(日)~10 月 8 日(木)

会 場: Concertgebouw Music Hall of Brugge (Belgium)

大会 HP: <http://vitamind.ucr.edu/current.html>

IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と 2 年に一度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

また、2013 年には、日本骨代謝学会との Joint Meeting が開催される予定です。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、
ご覧ください。

日本骨代謝学会は、運動器の 10 年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動

